

平成30年度 学校評価報告

草加市立新栄小学校
(平成31年2月8日作成)

1 学校教育目標 なかよく : 豊かな人間性とコミュニケーション かしこく : 学ぶ意欲と確かな学力 たくましく : 心身の健康と体力 【目指す学校像】 一人ひとりの子どもたちが輝く学校	
2 重点目標・努力目標 ・ 確かな学力を育む教育の推進 ・ 豊かな人間性とコミュニケーション力を育む教育の推進 ・ 体力向上・健康教育の継続 ・ 一人ひとりに応じた生徒指導・教育相談の推進 ・ 安全で潤いのある教育環境づくり ・ 絆を深め、地域とともに歩む開かれた学校づくりの推進 ・ 学校事故の防止と教職員事故の根絶	3 前年度の成果と課題 成果 ○保護者の学校評価アンケートで多くの項目で高評価を得た。(20項目中16項目) ○あいさつ、年間読書35冊の取組 課題 ●基礎学力の定着や学力の向上、基本的な生活習慣の改善、校務分掌組織の見直し

4 評価表 ※評価基準 [A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営目標及び方針を全職員が理解し、その実現のための教育活動が行われた。 ●分掌組織の見直しを図ったが、仕事の分担や部会のもち方に精査が必要。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの研究を継続し、児童の実態を踏まえた算数科の学力向上を目指し、全職員で取り組んだ。 ●ユニバーサルデザインの授業の共通理解が十分ではなかった。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭に対して「早寝・早起き・朝ごはん」やむし歯治療等の啓発を行った。 ○毎月、各担当で安全点検を行い、危険箇所の確実な把握に努めた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○規定に従い、個人情報管理を日常的に行っている。 ○安全点検結果をもとに施設・設備の修繕を早急に行った。また、平成塾や土曜寺子屋など施設を有効に活用した。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校評議員制度の活用 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○潤いと特色ある教育活動について、昨年引き続き保護者からの好評価(98%以上)を得た。 ●ホームページに関して、古い情報を削除するなどデータを整理した。更新回数を増やすことが今後の課題である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の実現に向けた取組 教育課程の編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に連絡協議会や推進委員会、また幼稚園・保育園も含めた合同研修会を実施し、一貫教育のさらなる充実のために取組を進めることができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数を確保するため、点検を実施し、教室訪問等により指導内容の完全履修を確認している。 ○学校・学年だより・懇談会などを通して目標、方針を周知した。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○課題・見通し・振り返りのある学習を継続し、子どもたちにとって分かる授業づくりを行った。 ○中学校区で連携して家庭学習チャレンジ週間の取組を行うなど、家庭学習について啓発し、充実を図った。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級における指導計画に沿って教科化となった道徳の授業を行っている。 ●指導者を招いた校内研修を実施し、教科化となった道徳の授業展開や評価の仕方についての理解を深められるようにした。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より3年生以上で外国語活動が行われたが、85%以上の児童から英語に慣れ親しんだとの回答を得た。 ●ALTとの打ち合わせの時間の確保。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ユリノキ発表会や音楽集会等の学校行事の保護者への公開で保護者から高い評価を得ることができた。 ●代表委員の児童が全校の場で活躍できる機会を増やすようにする。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材・関係機関との連携を図り、指導計画に基づいた体験活動行うことができた。 ●指導計画・指導内容の見直しを図る。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「即今着手・複数対応・即日解決」、「報告・連絡・相談・見届け・アフターケア」の合い言葉のもと、組織的・機動的に問題行動等への早期対応ができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動や総合的な学習の時間、生活科の単元で、将来の夢について考えたり、商店や工場を見学したりして、職業や働くことへの意識を高めた。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級との交流・共同学習の推進や通常の学級における特別に支援の必要な児童へ教育支援室との連携による対応が図れた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて児童の読書への意欲を高める取組を行ったり、保護者等の読み聞かせを行ったりすることで、図書館の利用率と貸出冊数を向上させることができた。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット活用やプログラミングに関する校内研修を行ったり、ICT支援員を授業で積極的に活用したりすることで、情報教育の充実を図った。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全教育活動に位置付け、各教科との関連を図り、その学年に応じて正しい理解と認識を培えるよう取り組んだ。 ○校内研修を実施し、全職員で人権問題についての共通理解を図った。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①食育	・多種多様な給食活動	A	○誕生会給食、スカイラウンジ給食、交流給食など多様な給食活動を通して、「楽しく・おいしく・みんなで食べる」の目標を達成している。食育が充実し、完食率・地産地消の割合も高い。
	②安全安心・美のある学校	・安全で美しい環境整備	A	○保護者・地域等と協力して登下校の安全確保に努めており、保護者からも好評価を得ている。 ○植栽ボランティアによる活動を通して1年中、花の絶えない美のある学校になっている。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・保護者の学校評価アンケートでは、昨年度と同じ20項目中16項目で「できている」「だいたいできている」の好評価(90%以上)を得た。特に、「特色ある教育活動、安全で安心な学習環境、家庭との連携」の項目では、97%以上の評価であった。
- ・保護者や地域の方が見守る安全・安心の中で大きな事故もなく、児童は安全な登下校ができています。登校の際は、多くの児童がよいあいさつができています。
- ・家庭学習チャレンジ週間や親子読書デーの取組、中学校の生徒による小学校でのあいさつ運動など、中学校区での小中の一貫した取組をさらに進めることができた。

6 次年度の改善策

- ①基礎学力の定着や向上を図るために、継続して取り組んでいる算数科の今年度の研究の実践を振り返り、成果と課題を明らかにし、成果については今後の算数科、また他の教科でも取り入れ、さらなる確かな学力の育成につなげるようにする。
- ②基本的な生活習慣である「6時30分起床」や「整理整頓」について、昨年度に引き続きできていない割合が約30%と高い状況にある。改善が図られるよう、より具体的な指導を行うとともに保護者会等で家庭への啓発を行っていく。
- ③校務分掌組織がより円滑に運営されるよう、仕事の分担や部会のもち方等を精査するとともに分掌組織の見直しを図っていく。
- ④ホームページの計画的な更新を進め、保護者や地域に対して積極的に情報を発信する。
- ⑤児童のあいさつのさらなる向上をめざし、生徒指導部を中心に、あらためて学校全体で取り組んでいく。